避難所における救援物資の扱いに着目した学校防災活動に関する一考察
ー豊田市立益富中学校を事例としてー

愛知工業大学大学院　学生会員　○岩間　虎太郎
愛知工業大学　非会員　橋本　操
愛知工業大学　正会員　小池　則満

1.　はじめに

大規模災害時において小中学校が避難所となり運営されていることが多い．そこには大量の救援物資が届くことも多く，必要な物資と仕分けについて防災教育と合わせて考えることは実際に即した演習を行えるという点で意義があるといえる．

本研究では中学生 1･2 年生とその保護者を対象とし，災害とその際必要となる救援物資に関連した意識調査を行う．そして生徒および保護者の意識の違いについて考察し，今後の学校防災活動について考えることを目的とする．

2.　研究概要

本研究では，愛知県南東部にある豊田市立益富中学校区を対象とする．対象地区には益富中学校をはじめとした緊急避難場所兼避難所が 4 ヵ所ある．学区内の一部はがけ崩れや地すべり等の土砂災害による被害が出やすい地域に指定されている[1)]．

そこでまず 2017 年 6 月 14 日，益富中学校の 1 年生とまち歩きを行った．写真を撮影しつつ，生徒自ら地域の危険な箇所，災害時の避難経路，近くの小中学校までの道のりを確認した．翌 15 日，大判の地図に撮影した写真を貼り付け，付箋を用いて危険箇所にチェックをしマップ作りを行った．

図-1　生徒たちのマップ作りの様子

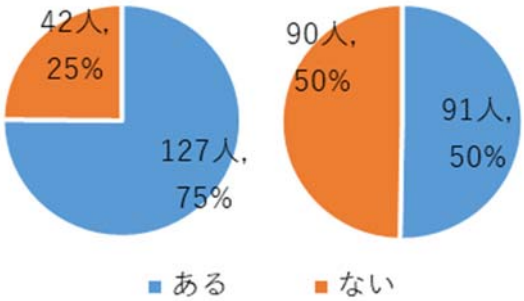
3.　アンケート概要

調査は学区の中学 1･2 年生とその保護者にご協力いただいた．調査票は 2017 年 12 月 1 日に担任を通じて配布，同月 14 日に回収した．配布数は保護者，生徒共に 198 部，回収数は保護者 170 部，回収率 85.9%．生徒 181 部，回収率 91.4%となった．

アンケート項目は対象の属性，避難所における物資，災害について，を設定した．加えて生徒用アンケートに 6 月に行われたまち歩きの感想，また，両アンケート共通で自由記述の項目も用意した．

4.　アンケート集計結果および考察

図-2 に「災害について家族と話し合ったことがありますか」の結果を示す．両図を比較すると「ある」と答えた方が保護者は約 75%を占めているのに対し，生徒は 50%となっている．保護者の方が災害について話し合ったつもりでいても，生徒はそう感じていないと考えられる．



$X^2=23.0$　$p<0.05$

図-2　災害について話し合ったことがあるか
(左図:保護者，右図:生徒)

図-3 に「災害について話し合った内容について」の結果を示す．図を見ると保護者では避難経路との回答が一番多く，2 番目に連絡手段について話し合ったという結果になった．生徒では避難経路が一番多いという結果は保護者と同じだが 2 番目に備蓄品が多かった．これは保護者では自身の子どもや家族の安否について関心が高いが，生徒はまだ家族の安

キーワード：学校防災　救援物資　避難所
連絡先：〒470-0392　愛知県豊田市八草町八千草 1247　愛知工業大学　TEL 0565-48-8121

否などに考えが及ばず，食料などの備蓄品について主に意識しているためといえる．

なお，支援物資について 29 項目を挙げて，複数回答可で欲しいものを挙げて頂いた．飲料水が最も多かったのは，保護者，生徒とも同じであったが，食料関係については生徒の回答率が高く「パン」について保護者が 39%に対し生徒が 67%，「缶詰」について保護者が 42%に対し生徒 77%，「菓子類」が保護者 21%に対し生徒 53%，「果物・野菜」が保護者 19%に対し生徒が 46%であった．一方で，保護者では比較的食料品よりも衣料品や医薬品，生理用品を挙げた方が多く，「生理用品・おむつ」の項目では生徒の回答率が 41%に対し保護者は 67%であった．

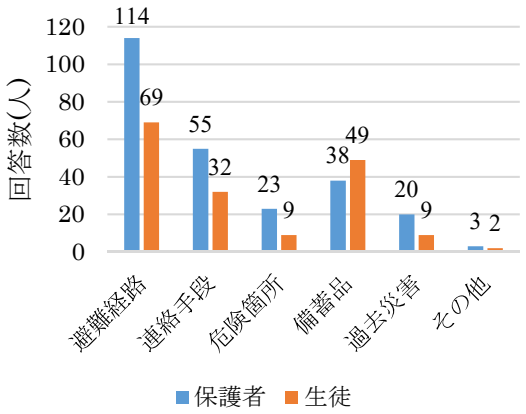
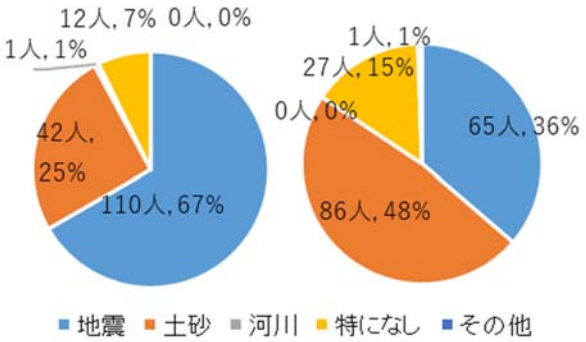


図-3　家族で話し合った内容

図-4 に「心配な災害について」の結果を示す．比較すると保護者は地域で心配な災害は地震という回答が多いが，生徒は地震よりも土砂災害が心配という回答が多くなっている．このような結果になったのは，対象地区のまち歩きを行った際に，土砂災害の危険性について学んだ影響があるのではないかと推測する．



X^2=34.0　p<0.05

図-4　地域で心配な災害(左図:保護者，右図:生徒)

なお，保護者用アンケート自由記述では「災害に備えて防災の授業を通して知識を得たい」，「災害時のことについて話し合う良い機会となった」，「避難所の運営ゲームを体験したことがありその時に学んだことは本当に役立つものだった」など前向きな感想や意見が得られた．また，避難所での生活を心配する声も多数見られた．

5.　学校防災活動に関する提案

調査の結果，いくつかの設問で保護者と生徒の意見や考え方が違うことが分かった．防災学習の結果であると考えることができる差異もあれば，保護者という立場に依ったと考えられる違いも見られた．

避難所での生徒たちの役割として投げかけられるテーマとして救援物資の梱包作業がある．しかしこれは予めどのように作業するか考えておく必要がある．体育館などで宿泊をともなう「防災キャンプ」と呼ばれる学習が各地で行われている．その中で，災害時に必要と考えられる救援物資を避難所に搬入し，梱包作業や配布作業を行うと，実際に即した「気づき」をもたらせるものと考えられる．また，まち歩きを学区内の物資輸送をイメージしたものにするのも一つのアイディアである．たとえば， 学区の防災マップを用いたテーブルトークロールプレイングゲーム(TRPG)を行うことも一つの考えである．マスには災害に対する知識を聞くクイズ形式のものやゲームの最中に手に入れたアイテムで問題に対応するなど様々な工夫が考えられる．参加者の発想によって行動が変化する TRPG は災害時の柔軟な対応の成長を促すことができると考える．

6.　まとめと今後の課題

本研究では，学区のまち歩きと防災マップ作成を行うとともに災害とその際必要となる救援物資に関連した意識調査を行い，今後の学校防災教育に向けた提案を行った．今後，継続的な取り組みによって地域住民の防災意識の向上，救援物資の扱い，避難所運営に関して，学校防災教育の中で考えていくための工夫が必要である．

1) 豊田市土砂災害危険箇所マップ（豊田地区）
http://www.city.toyota.aichi.jp/kurashi/bousaibouhan/doshasaigaimap/1006274/html(3/25)